

令和6年度（2024年度）新規研究課題

課題番号：R6-04

課題名：薬用作物「ヒロハセネガ[※]」の経済栽培実現に向けた出芽率向上技術の確立

研究期間：令和6年度～令和8年度（2024年度～2026年度）

研究担当：農林業技術部 農業技術研究室

1 研究の背景

ヒロハセネガは栽培にかかる労力負担が比較的少なく、収益性が高いと考えられているが、採種効率が低いことおよび種子の発芽率が低いことがネックとなっており、経済栽培には至っていない。

2 目的

ヒロハセネガの採種～種子保存方法、播種時期の最適化によって出芽率を向上させるとともに、栽培体系の確立を図る。

3 研究内容

- (1) 種子保存、播種時期、播種方法の最適化により、出芽率の向上・安定を図る。
- (2) 1年および2年作型それぞれの栽培体系を確立する。

4 研究のポイント

他県で得られた研究成果等を参考に、山口県産地に適したヒロハセネガの種子保存～播種技術および栽培体系を構築する。

※ ヒメハギ科の植物で北米原産。明治時代に薬用作物として導入された。根部を気管支炎等の去痰剤として用いる。

山口県は大阪生薬協会と連携協定を締結し、薬用作物の産地化に取り組んでいる。



阿武町での栽培の様子

薬用作物「ヒロハセネガ」の経済栽培実現に向けた 出芽率向上技術の確立

研究期間：R6-R8（2024-2026）

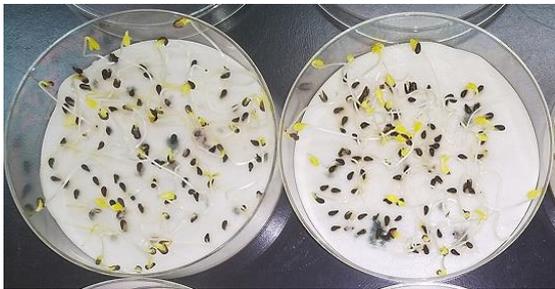
研究担当：農林業技術部 農業技術研究室

【研究内容】

ヒロハセネガの採種～種子保存方法、播種時期の最適化によって出芽率を向上させるとともに、栽培体系を構築する。

1 出芽率向上

低温湿潤処理方法や処理期間による発芽率の違いを確認し、播種時期や播種方法の最適化によって出芽率の安定化を図る。



発芽率向上



出芽率向上

2 栽培体系の構築

播種～収穫まで1年で完結する1年作型と、採種を兼ねて2年間栽培する栽培体系について、栽植密度による収穫量（根）の違い等を確認する。



1年完結型



2年採種兼用型

収穫
採種



作型（案）

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年作型		播種										収穫													
2年作型		播種																	開花	採種				収穫	